

ボ火山の噴火による成層圏エアロゾルの増加は、赤道域の成層圏の気温を約3度上昇させることが示されている。

このように、本書は、エアロゾル・雲・気候システムの相互作用をほぼ網羅しているが、少し物足りなく感じるのは雲の形成過程と気候システムの相互作用についてである。これは著者・編者の責任というより、気候システムが変化するとき（大規模スケールの場合が変化するとき）、雲の性状がどう変化するかということに関する研究がきわめて不十分であることに寄因するのであろう。エアロゾルや雲の微物理構造の違いによる放射特性の変化が数%程度であるのに対して、雲の種類とその雲量の変化はそれより1桁大きな効果をもっており、この方面の研究の推進が望まれる。

本書では、多くの章が「研究の歴史」、「最近の進展」、「今後の課題」という形式で記述されており、最新の文

献（1992年まで）が豊富に引用されているのと同時に、未解決の重要な問題が多数指摘されている。この分野の研究者にとっては最新の研究動向を知るレビューとして、これからこの分野の研究に進もうとする大学院生等の若手研究者にとっては研究のガイダンスとして、また、他分野の研究者にとっては、いま世間をにぎわしている気候問題を雲による放射バランスという観点から垣間見る読み物として良書となるであろう。

多くの若手研究者が興味をもち、本書中で指摘されている今後の課題の多くが解決され、10年後或いは20年後に内容を一新した「Aerosol-Cloud-Climate Interactions」が出版されることを期待したいものである。Hobbs教授が本書を手掛けた動機の一つもそこにあったのではないだろうか。

(気象研究所 村上正隆)

日本気象学会および関連学会行事予定

行事名	開催年月日	主催団体等	場所	備考
第20回 気候影響・利用研究会	1994年3月1日	気候影響・利用研究会	気象庁第一会議室 (千代田区)	国立環境研究所 増田 啓子 Tel. 0298-51-6111
温室効果気体に関する 国際会議	1994年3月7日 ～10日	東北大学	仙台国際会議場 (仙台市)	東北大学理学部 中澤 高澄 Tel. 022-222-1800
地球循環のための 中層大気観測 国際ワークショップ	1994年3月17日	郵政省	三田共用会議場 (港区)	
日本気象学会 1994年度春季大会	1994年5月24日 ～26日	日本気象学会	お茶の水スクエア (旧主婦の友会館) (千代田区)	
第31回理工学における 同位元素研究発表会	1994年7月11日 ～13日	理工学における同位元素研究 発表会運営委員会	国立教育会館 (千代田区)	日本アイソトープ協会 内 Tel. 03-3946-9681
日本気象学会 1994年度秋季大会	1994年10月18日 ～20日	日本気象学会	九州大学 (福岡市東区)	
第13回風工学 シンポジウム	1994年11月30日 ～12月2日	日本風工学会、電気学会 日本気象学会、土木学会 ほか	日本学術会議講堂 (港区)	東京大学生産技術研究所 村上研究室 Tel. 03-3401-7439